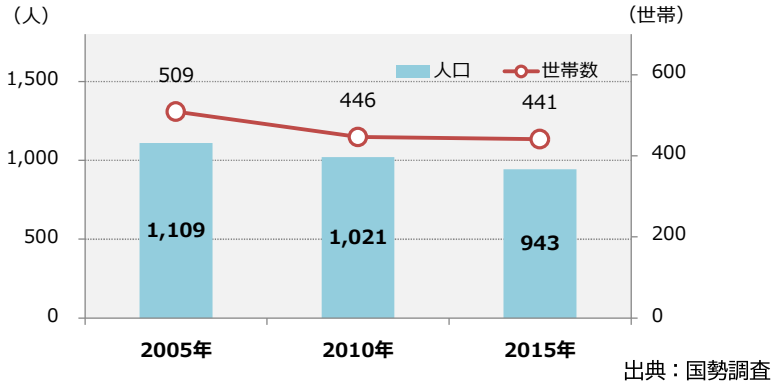
2 新見駅周辺の概要

（1）新見駅周辺の人口動態

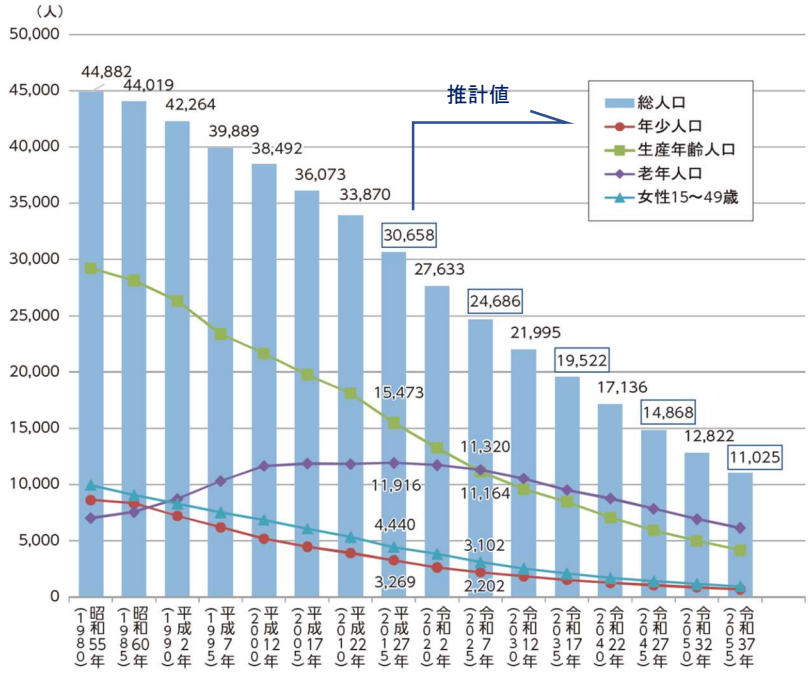
・新見駅周辺の人口および世帯数は、平成 17（2005）年、平成 22（2010）年、平成 27（2015）年において、いずれも減少傾向にあります。
・平成 17（2005）年から平成 27（2015）年の 10 年間で、人口については 15%の減少、世帯数については 13.4%の減少となっています。
・本市の総人口についても、減少傾向にあり、将来的にも減少傾向は続くと推計されることから、新見駅周辺地域においても、居住人口減少は続き、空き店舗や空き家、空き地の更なる増加が懸念されます。

■ 新見駅周辺地域の人口・世帯数の推移



出典：国勢調査

■（参考）新見市　人口動態・将来推計



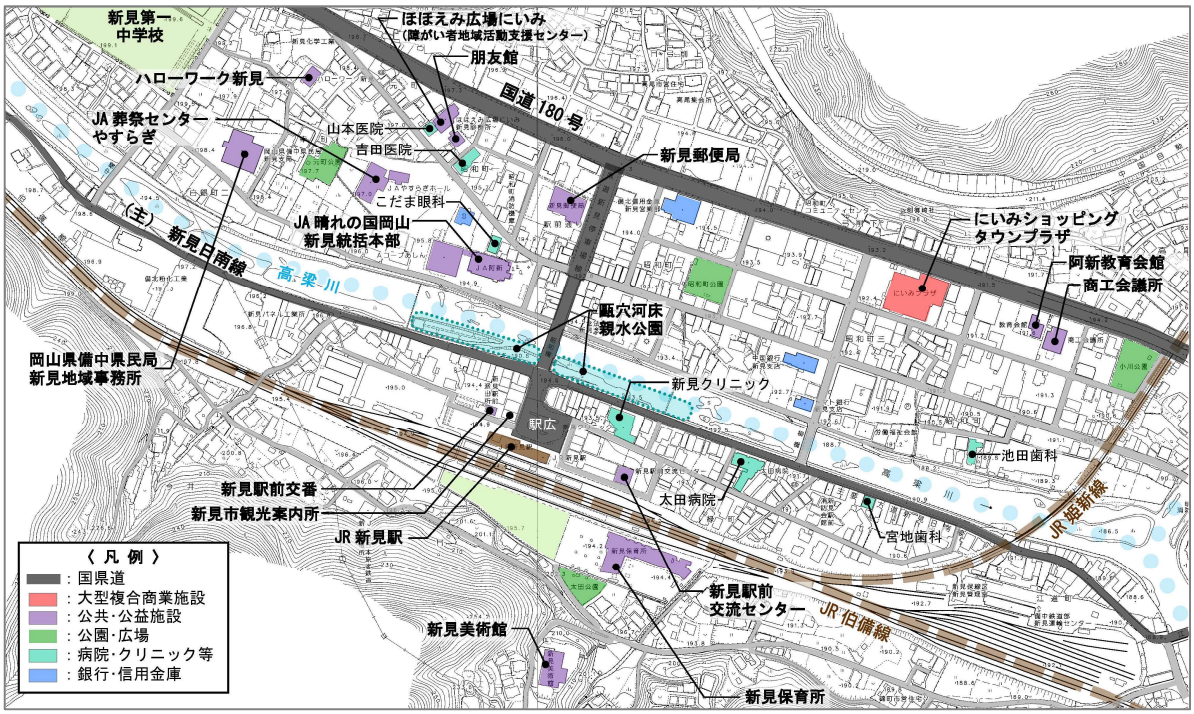
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計

（２）施設の立地状況

１） 主要施設の立地状況

・高梁川南側には、ＪＲ新見駅、保育所、美術館や医療施設等が立地しているものの、商業施設や郵便局など、多数の日常生活の利便施設は、北側の国道 180 号周辺に立地しています。

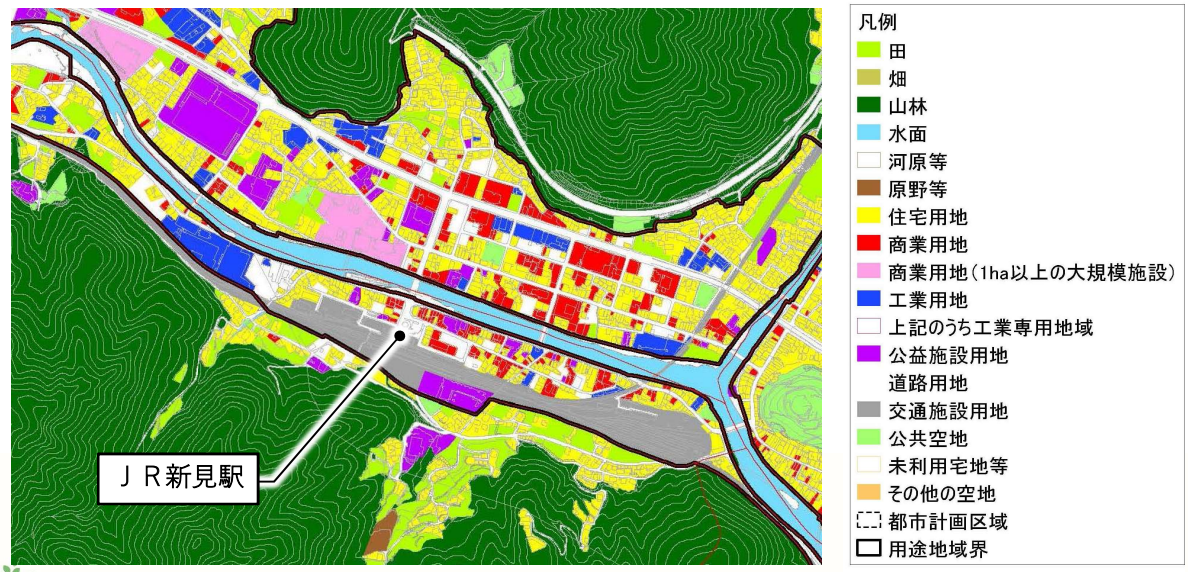
■ 駅周辺の主要施設の立地状況



２） 土地利用状況

・ＪＲ新見駅北側から国道 180 号沿いにかけては、商業施設や工業用地、公益施設用地が立地しており、その背後に住宅用地が広がっています。ＪＲ新見駅南側については、山林を背後に農地と住宅が立地しています。

■ 駅周辺の土地利用状況



出典：都市計画基礎調査

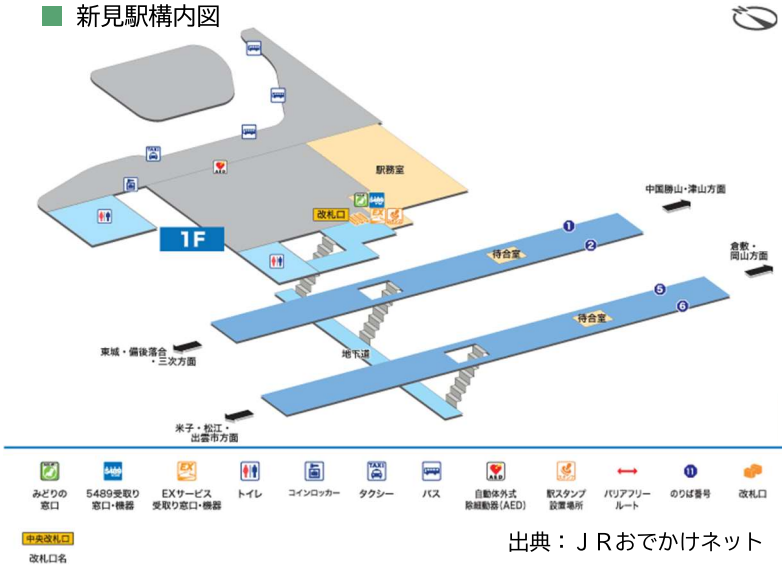
3）主要施設の現状

❶　ＪＲ新見駅

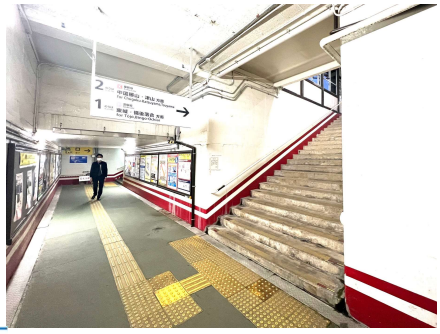
・ＪＲ新見駅は、伯備線、姫新線、芸備線の３路線が乗り入れる要衝駅です。
・ＪＲ新見駅の駅舎、駅前広場は、北側のみに設置されています。また、連絡通路の地下道などは、バリアフリー未対応であり、車椅子等介助が必要な利用者には駅係員が対応しています。

新見駅全景

■ 新見駅構内図



出典：ＪＲおでかけネット


新見駅地下道（バリアフリー未対応）

■ ＪＲ新見駅の概要

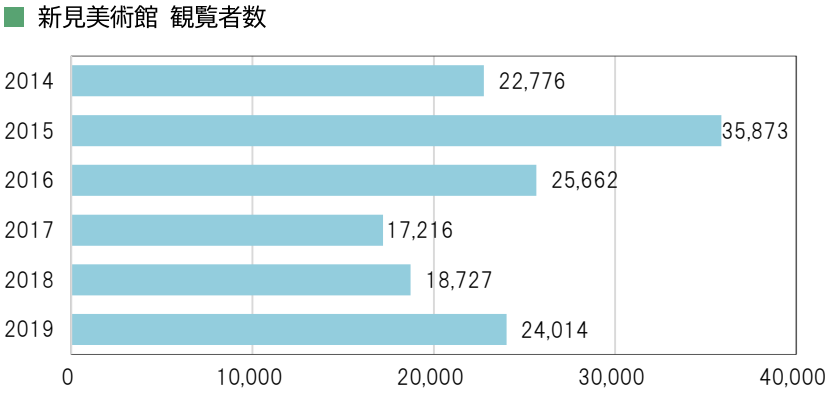
項目			概要	
駅施設	構造/ホーム		地平駅/2 面 6 線	
	ホーム間の連絡		地下道（バリアフリー未対応）	
	改札口・出入口		北側のみ	
営業情報	乗車人員		733 人/日（2019 年、定期率 45.4%）	
	運行本数	伯備線	平日：上り 28 本(うち特急 13 本)、下り 21 本(うち特急 13 本) 休日：上り 31 本(うち特急 16 本)、下り 24 本(うち特急 16 本)	
		姫新線	平日：8 本、休日：7 本	
		芸備線	平日：6 本、休日：5 本	
	駅員		有人	
	設置機器台数		有人改札：1 ヵ所／券売機：2 台／簡易 ICOCA 改札機：1 台	
結節機能			北側	南側
	駅前広場・面積		○(2,400 ㎡)	―
	バス		○(3 バース)	―
	タクシー		○(2 バース)	―
	一般車		○(駅前広場内駐車場 5 台、15 分無料)	―
	駐車場		○(45 台)	―
	駐輪場		○	―

出典：岡山県統計年報（乗車人員）、ＪＲおでかけネット（運行本数（令和４年４月時点））

❷ 新見美術館

新見美術館

・新見美術館は、文人画家富岡鉄斎の作品をはじめ、1,200 点余り（2022.3 末）の美術品を収蔵しており、1990 年の開館以降、さまざまな展覧会を開催しています。
・来館者数は、2015 年をピークに減少傾向にありましたが、2017 年以降は増加傾向にあり、2019 年には 24,014 人が来館しています。来館者は、岡山市、倉敷市などの県南部からが最も多く、市内や県外からも来館しています。
・美術館からは、牛丸大山を背景に、市街地の風景を一望することができます。また、周囲は、憩いゾーンとして庭園が整備され、四季を通じて新見の自然美に親しむことができます。
・美術館は、駐車場から入口までに階段や急勾配な道路を経由しなければならず、バリアフリー化や搬入困難な美術品があることから展示品が制限されるなどの課題を抱えています。
・ＪＲ新見駅からのアクセスについては、駅乗降口から美術館へ直接アクセスする経路が存在しないため、迂回が必要な状況となっています。



出典：岡山県観光客動態調査

❸ 甌穴（おうけつ）河床親水公園（高梁川）

・高梁川沿いには、甌穴（おうけつ）河床を鑑賞することができる親水公園が整備されています。護岸には、本市の歴史や風景などをモチーフとした壁画も整備されています。

親水公園

護岸壁画

甌穴（おうけつ）河床

❹ 商店街

・ＪＲ新見駅前には、趣のある商店街があり、商店の数は年々減少しているものの、今も営業が続いていいます。

駅前商店街

❺ 新見市観光案内所

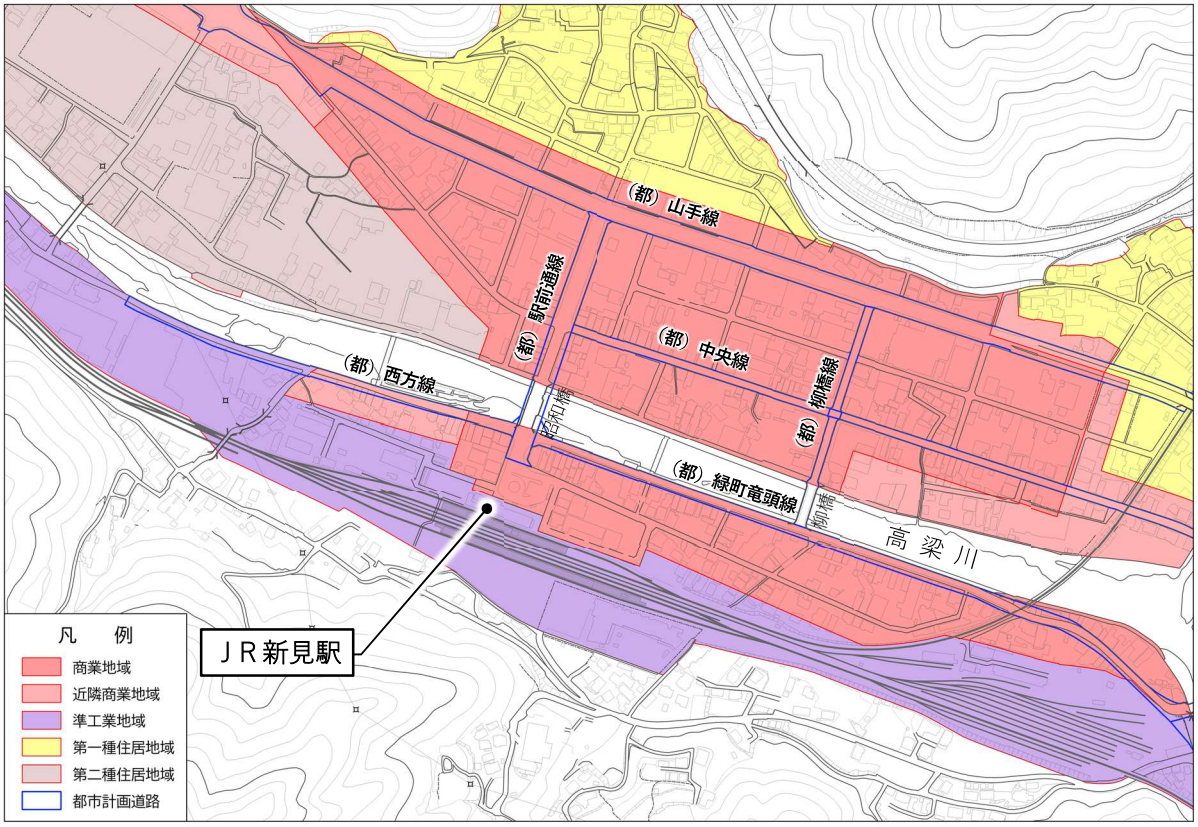
・2019 年に移転開設した観光案内所では、観光案内と特産品の販売に加え、予約型観光タクシーの受付、レンタサイクルの貸出などを行っています。

新見市観光案内所

４）都市計画の状況

・用途地域については、主に、ＪＲ新見駅の北側が商業地域、西側が準工業地域に指定されています。南側は、指定のない白地区域となっています。
・ＪＲ新見駅の北側には、複数の都市計画道路が定められています。

■ 駅周辺の都市計画の状況



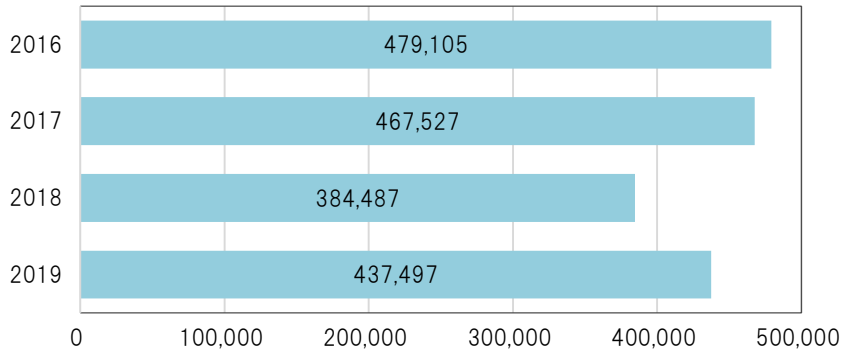
用途地域　　都市計画法により定めた建築物の用途について一定の制限を設けた地域
都市計画道路　都市計画法により定めた将来的に拡幅などが計画されている道路

（３）市内観光の状況

１）観光入込客数の推移

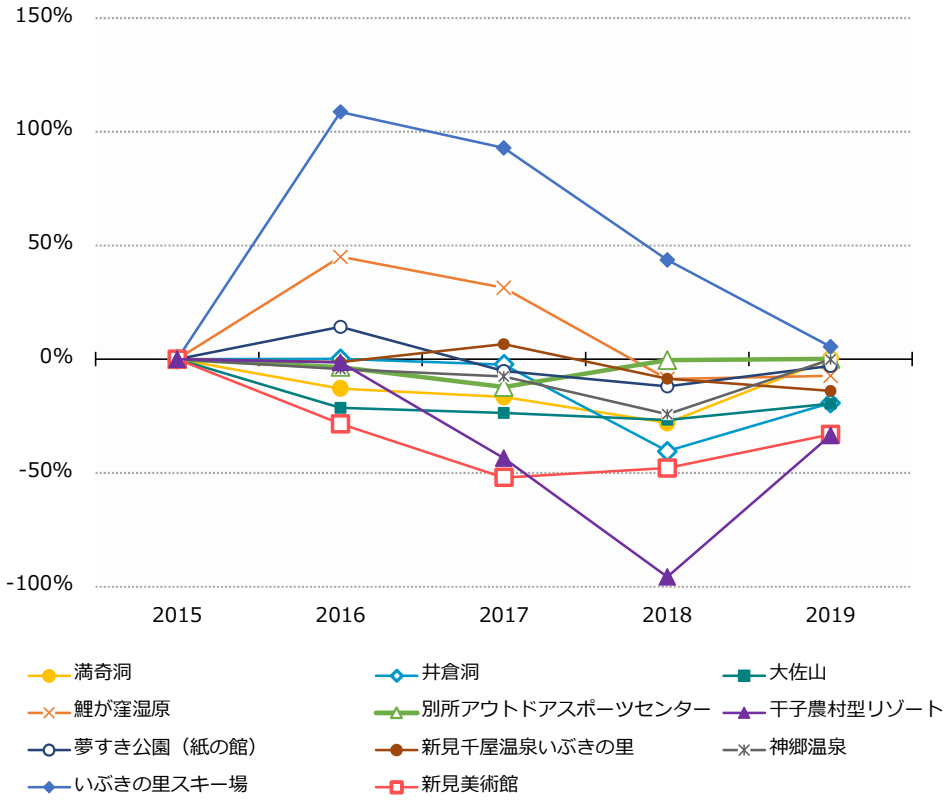
・市内の観光客数は、減少傾向にあり、2019 年の市内の主要施設･イベント等の観光客数は、437,497 人です。

■ 新見市内主要施設･イベント等の観光入込客数



出典：新見市集計データ

■ 新見市内主要 10 施設+新見美術館の来訪者数増減率の推移（2015 年を基準とする）



出典：新見市集計データ

（４）公共交通の状況

１）鉄道路線の状況

・ＪＲ新見駅には、倉敷から米子方面を結ぶ伯備線、津山・佐用を経由し、姫路へ向かう姫新線、そして東城・備後落合・三次を経由し、広島へ向かう芸備線の３路線が乗り入れています。伯備線については１時間に２本程度運行し、姫新線は１日８往復、芸備線は１日６往復運行しています。

・2019 年のＪＲ新見駅の乗車人員は、733 人/日であり、定期利用については横ばい、定期外利用については減少傾向にあります。

■ ＪＲ路線図イメージ

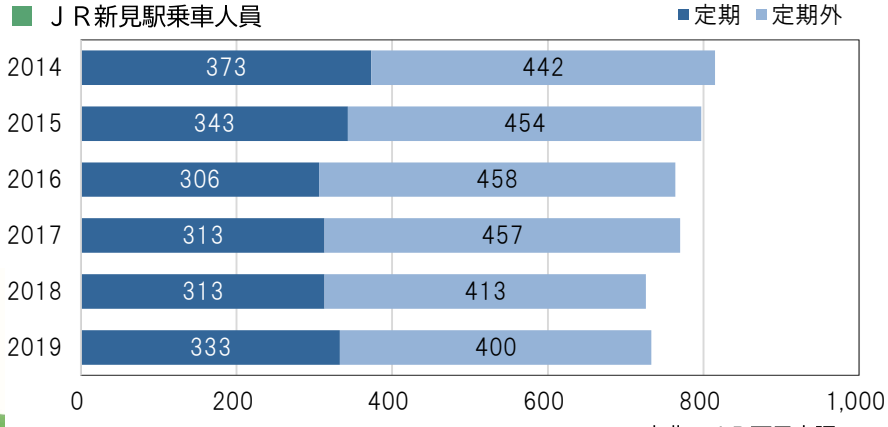
出典：ＪＲおでかけネット

■ ＪＲ新見駅の営業情報

項目			概要
営業情報	乗車人員		733 人/日（2019 年、定期率 45.4%）
	運行本数	伯備線	平日：上り 28 本(うち特急 13 本)、下り 21 本(うち特急 13 本) 休日：上り 31 本(うち特急 16 本)、下り 24 本(うち特急 16 本)
		姫新線	平日：８本、休日：７本
		芸備線	平日：６本、休日：５本

出典：ＪＲおでかけネット（令和４年４月時点）

■ ＪＲ新見駅乗車人員



出典：ＪＲ西日本調べ

2）バス路線の状況

・備北バスは、７路線で１日に、平日 53 便、土・祝日 35 便、日曜 25 便が運行されており、全ての便が新見駅を発着します。

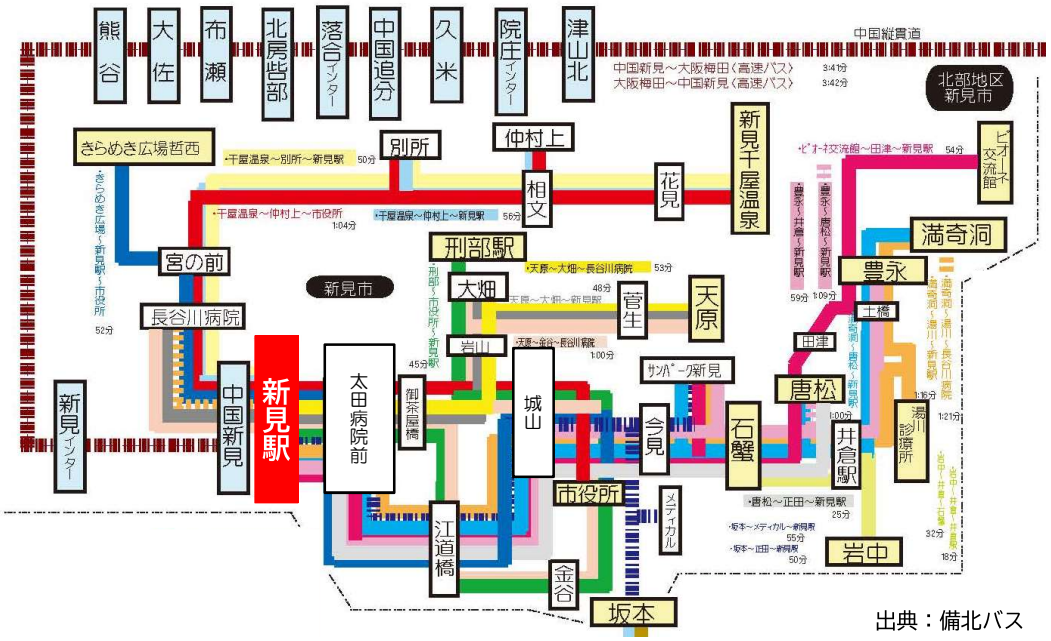
・新大阪･大阪梅田行の高速バスも、ＪＲ新見駅から約 300m北の新見郵便局前から１日４便が運行されています。

	方面	総本数（便/日）		
		平日	土・祝	日曜
備北バス「新見駅」	循環バス「ら・くるっと」	12	12	12
	新見駅～ピオーネ交流館・満奇洞	9	5	3
	新見駅～菅生（天原）	11	7	3
	刑部駅→新見駅	1	―	―
	市役所・新見駅～千屋温泉	10	5	4
	市役所・新見駅～きらめき広場（哲西）	3	―	―
	新見駅～坂本・川上バスセンター	7	6	3
高速バス ※備北バス、阪急バス共同運行	中国新見・落合・院庄・津山北～新大阪・大阪梅田	4	4	4

出典：備北バス（令和４年４月時点）

※高速バスは、新型コロナの影響で運休中

■（参考）備北バス系統略図（北部地域抜粋）



出典：備北バス

■（参考）その他の交通手段「新見市予約型観光タクシー」

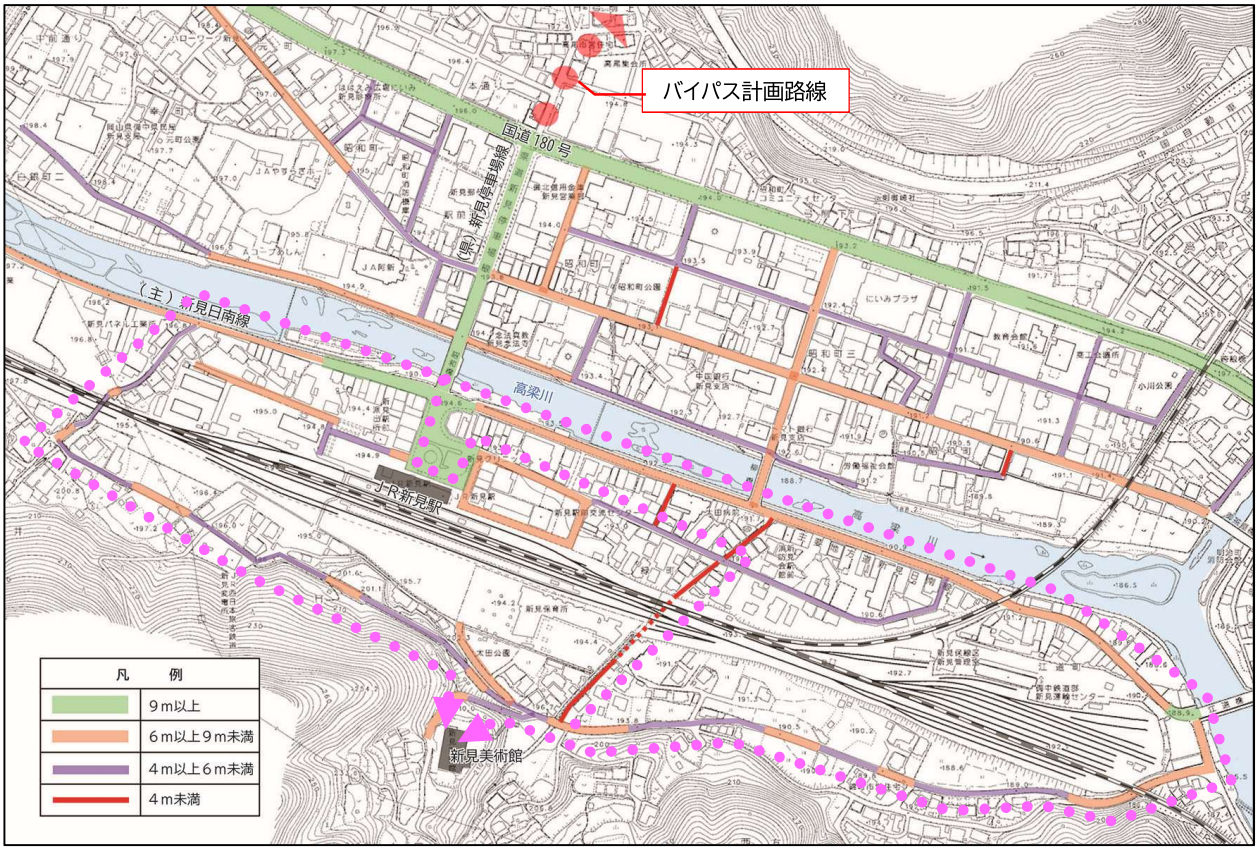
・市内の観光地を充分に周遊していただくことを目的として、市内の観光および食事･宿泊等にタクシーを利用した場合、１／２の運賃でご乗車いただける予約型観光タクシーを運行しています。

（５）道路交通ネットワークの状況

１）主要道路の状況

・本エリアの北側には、国道 180 号があり、駅前広場までは県道新見停車場線で接続されています。また、県道新見停車場線から主要地方道新見勝山線へのバイパスが計画されています。
・ＪＲ新見駅から新見美術館へのアクセスについては、駅乗降口から駅東または駅西へ迂回する必要があります。
・高梁川沿いの主要地方道新見日南線は、一部歩道が整備されていますが、道路幅員が十分ではありません。

■ 幅員別道路現況



▶ 駅から美術館へのルート

（６）地区を取り巻く状況

１）地区周辺の状況

❶　新見公立大学の学生数の増加

・新見公立大学は、2019 年４月から、２年制の新見公立短期大学の地域福祉学科と幼児教育学科が４年制に改組され、あわせて看護学科の定員も増えたため、学生数が増加しました。

新見公立大学

❷　新見駅西エリア整備事業

・新見駅西エリア整備事業では、新見公立大学の学生数増加に伴う学生住居の不足、駅周辺地域の活力低下という課題を解決するため、学生向け賃貸住居を整備し、この建物の１階を公立大学のサテライトスペースとして活用しています。

えきよこ（大学生居住棟）

❸　令和元年９月の集中豪雨による被害

・ＪＲ新見駅周辺では、令和元年９月の集中豪雨により、土石流や床上浸水の被害が発生しました。

・防災対策として、岡山県が、緊急砂防事業により砂防堰堤を整備しました。本市においても、流水断面の確保などの雨水対策事業を進めています。

豪雨による被害状況

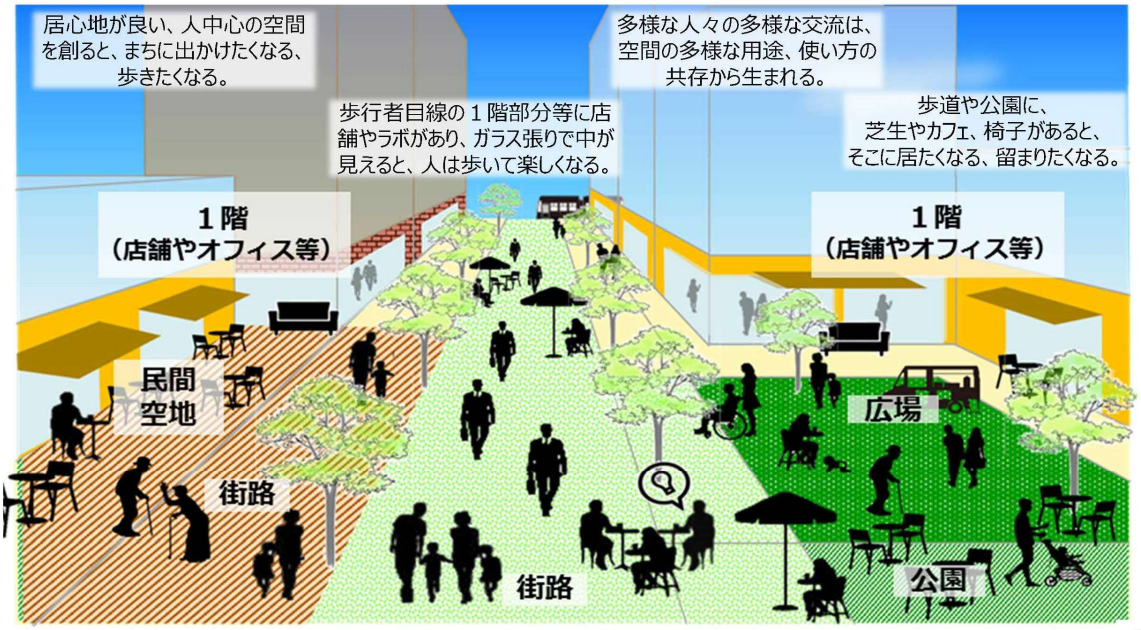
水路の復旧整備箇所

2）全国的なまちづくりの潮流

❶　ウォーカブルなまちづくりの推進

・人口減少や少子高齢化が進み、地域の活力の低下が懸念される中、都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出することが、多くの都市に共通して求められています。
・居心地よい歩行空間や滞留スペースを生み出すことで、まちなかを車中心から人中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場を創出する取組が、各地で行われています。

■ ウォーカブルなまちづくりのイメージ



沿道施設と一体となった道路整備による
ウォーカブルな憩い空間の創出（松山市）

くつろぎの場提供やにぎわいづくりに向けた社会実験
（姫路市）

❷　地域と芸術が連携したまちづくり

・美術館を飛び出し、まちなかや自然の中でアート作品を鑑賞する取組が、各地で行われています。アート作品と背景となる自然・町並みの融合を楽しんだり、美術館とまちが連携したイベントの開催などにより、一味違った芸術鑑賞ができ、アートをより身近に感じることができます。

・近年は、建物や河川護岸等へのプロジェクションマッピング等も開催されており、普段とは違う、夜の景観を楽しむイベントとして注目されています。

河川でのプロジェクションマッピングイベント（左：大阪市、右：長崎市）

空地を利用したアート作品の展示（十日町市）

まちなか音楽会（大阪市）

町並みを活かしたアート作品の展示（宇陀市）

❸　かわまちづくり

・「かわまちづくり」とは、「かわづくり」と「まちづくり」を一緒に考え、市町村、民間事業者および地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組のことです。
・水辺に親しむための整備を行うことで、「かわ」と周辺の歴史・文化資源の連携による観光利用や、散策やリハビリなどの福祉利用を促進することができます。
・河川環境の整備については、まちづくりと一体となった検討を進める必要があります。

川の眺望を楽しみながら休憩できるテラス空間の設置（広島市）

■ かわまちづくり支援制度の概要

ソフト施策による支援

・都市・地域再生等利用区域の指定等による民間事業者等のオープンカフェ等への河川空間の多様な利活用の促進
・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例

遊歩道の民間活用
（道頓堀川／大阪市）

オープンカフェの設置
（京橋川／広島市）

先進的な取組の情報提供

民間事業者の参加
（信濃川／新潟市）

賑わい拠点の整備
（木曽川／美濃加茂市）

ハード施策による支援

・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。
（市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備）

河川管理用通路の利用
（最上川／長井市）

親水護岸の利用
（新町川／徳島市）

❹　ニューノーマルへ対応したまちづくり

・人々の生活様式は、2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、デジタル化の進展も相まって、テレワークの急速な普及や自宅周辺での活動時間の増加など、大きく変化してきました（ニューノーマル）。これに伴い、ワークライフバランスの重視など、「働き方」や「暮らし方」に対する意識や価値観が変化・多様化しています。

・「働く」「暮らす」場である都市に対するニーズも変化・多様化しており、まちづくりにおいては、人々のライフスタイルに応じた多様な働き方・暮らし方の選択肢を提供していくことが必要です。

・近年のまちづくりでは、空き家をコワーキングスペースなどへリノベーションし、自宅以外のワークスペースを生み出したり、街路などのオープンスペースの柔軟な活用によりゆとりある屋外空間を生み出すなど、都市の中の既存ストックを最大限に利活用することが求められています。

民間と連携した公園のリノベーション・利活用のイメージ

街路空間の利活用のイメージ

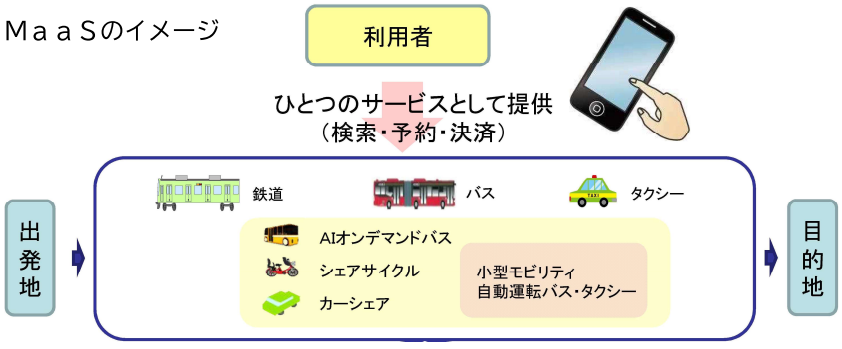
コワーキングスペースのイメージ

❺　新たなモビリティの進展

・ＩｏＴ等の活用により、あらゆるモビリティ（交通手段）を切れ間なくつなぐ移動サービス「ＭａａＳ※」の普及が期待されています。

・サービスを支える環境整備として、バリアフリー化を含めた駅の改修など、誰もが利用しやすい交通結節点の整備等の取組が模索されています。

■ ＭａａＳのイメージ



※「Mobility as a Service」の略で、地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのことです。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となります。

❻　ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）へ対応したまちづくり

・2015 年に国連において採択されたＳＤＧｓは、持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。将来にわたって「住み続けられえるまちづくり」を行っていくためにも、常にＳＤＧｓの理念に沿った施策に取り組んでいくことが必要です。

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）